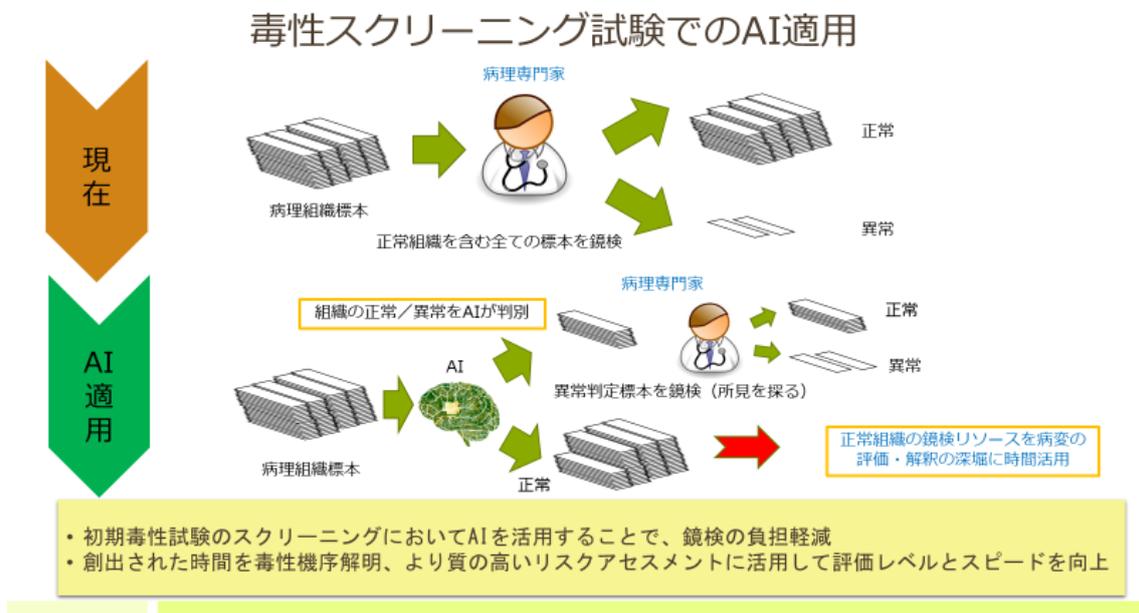


⑤ AIによる病理画像処理（LINC内番号：PJ06）

AIシステムの概要

非臨床試験の実験動物の肝病変画像をAIに学習させ、肝毒性の有無（画像が正常であるかどうか）を判定するAIを開発した。



AIシステムの社会・産業応用可能性

実験動物に薬物を投与して毒性をスクリーニングする段階で、毒性を示す異常な病理標本をAIが判定・抽出する。病理学者が異常判定標本を顕微鏡で確認する作業が減るため、リソースシフトが可能になる。その結果、創薬の効率化及び加速化を図ることができる。

参画メンバー（企業、アカデミア）

富士通(株)、Lpixel(株)、シスメックス(株)、製薬企業2社